

3) ソウハチ資源調査

倉長 亮二

目的

本県沖合底びき網漁業の主要漁獲対象魚種のうち、本県沖合における生態的知見の乏しいソウハチを対象に、資源状況及び生態についての基礎資料を収集し、適正な資源利用を目指す。

方法

- ①本県沖合底びき網漁業の基地である田後（田後漁業協同組合）、網代（鳥取県漁業協同組合網代港支所）、賀露（鳥取県漁業協同組合本所）の各地区の漁獲量を集計することにより、漁獲動向を把握した。
- ②水揚げされた漁獲物について、毎月1回の市場調査を行い、各銘柄の体長、体重、性別、胃内容物、生殖腺重量などを測定した。

結果

①1975年以降の漁獲量の推移を図1に示した。本種は1990年代前半までは賀露で主に漁獲されていたが、1990年に入ってから田後の漁獲が増加し、1990年代後半以降は賀露と田後で県内の漁獲をほぼ2分している。一方、漁獲量は1989年以降、変動しつつも増加傾向にあったが、1999年の1,569tをピークに減少傾向となり2004年は458tでピーク時の29%まで落ち込んだ。2005年の漁獲量は540tでやや増加し、2006年は574tで2年連続して増加した。

次にソウハチの月別漁獲量の比較を図2に示した。近年では比較的好調であった2002年は4、5月及び

10月に漁獲の山が見られるが、漁獲がやや落ち込んだ2003年は4、5月の山が見られなくなっていた。さらに2004年には10月の山も消失し、各月の漁獲量も2002年を大きく下回っていた。そのため、年間漁獲でも近年では最低水準となったと思われる。一方、2005年9月の漁獲量は141tで、1997年以降では最も多い漁獲であった。2006年も前年と同様の傾向を示し、特に2月、3月は近年では最低水準となったが、9月以降は持ち直し、10月がその年の漁獲のピークとなっていた。

②鳥取県における雌雄別体長別漁獲尾数を表1及び図3に示した。漁獲尾数の算出は賀露の水揚げ物を代表値として用いることとし、賀露での市場測定及び生物測定から銘柄別体長組成を求め、これに賀露の銘柄別漁獲尾数で重み付けし、それに鳥取県の漁獲量を乗ずることにより算出した。その結果、総漁獲尾数は約420万尾で昨年並となっているが、雌雄別には雌は前年の108%、雄は前年の70%であった。月別体長組成では、1月には体長17cm前後の雌、5月は体長20cm前後の雌、そして、9月、10月は体長21cm前後の雌を主体に漁獲されているが、これは、2003年及び2004年級群が主体と思われる。

さらに、2005年及び2006年の年間体長別漁獲尾数を図4に示した。雌は両年とも体長20cm前後に、雄は2005年は体長18cm前後に2006年は体長20cm前後にモードがあり、雌雄とも前年に比べ組成全体が右にシフトしている状態が見受けられた。

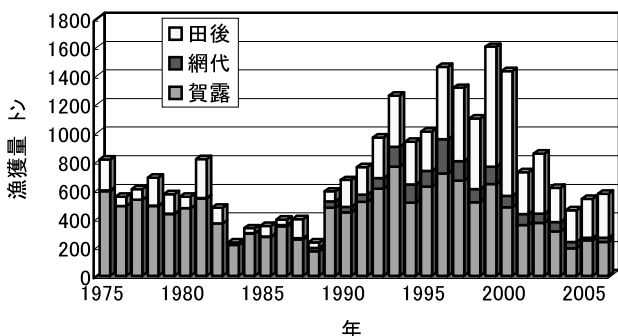


図1 鳥取県におけるソウハチの漁獲量の推移

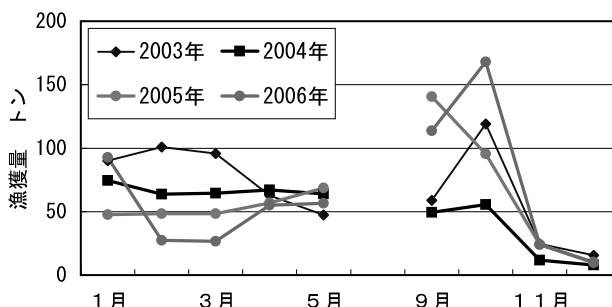


図2 ソウハチの月別漁獲量の比較

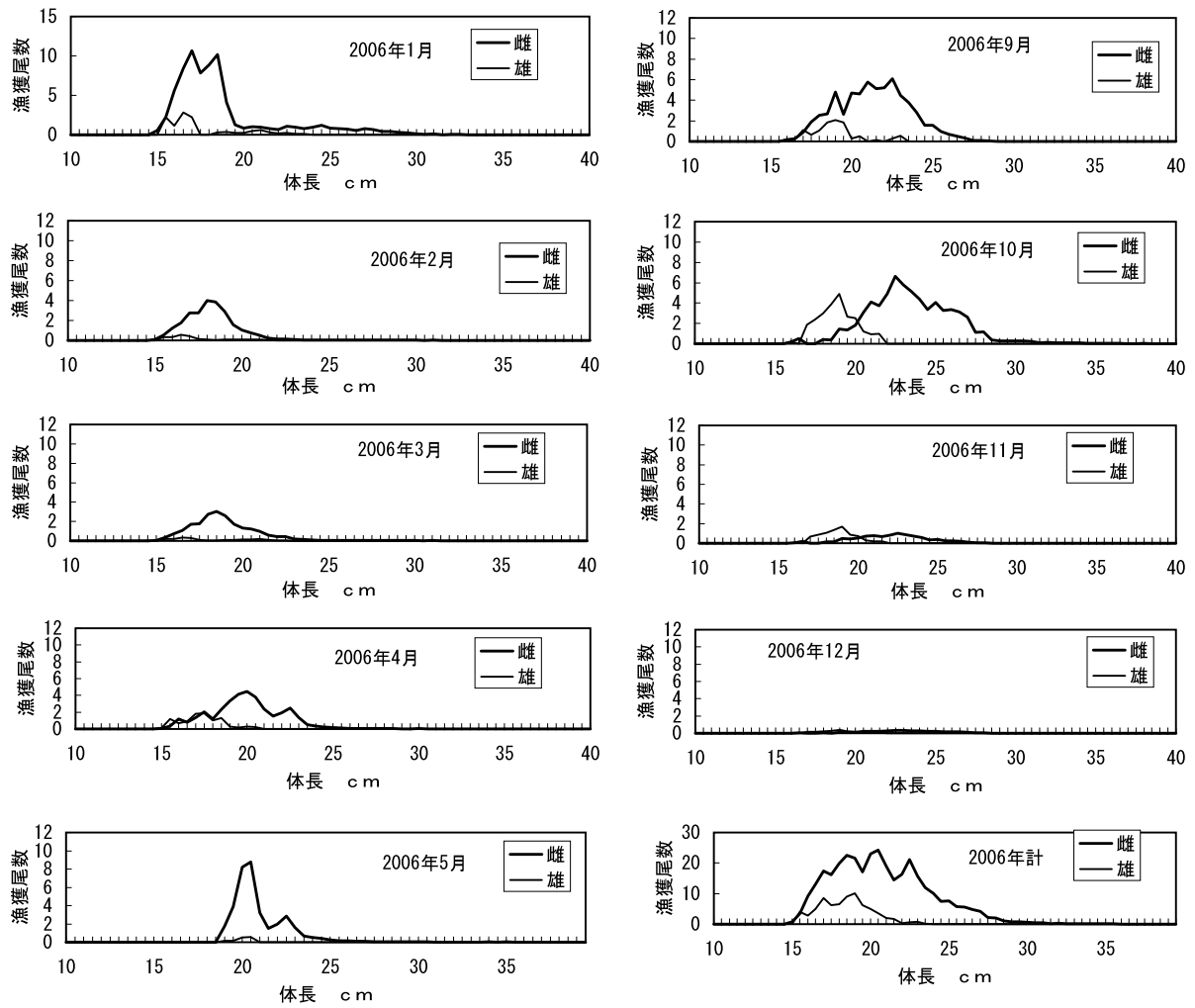


図3 ソウハチの月別雌雄別体長別漁獲尾数(万尾)

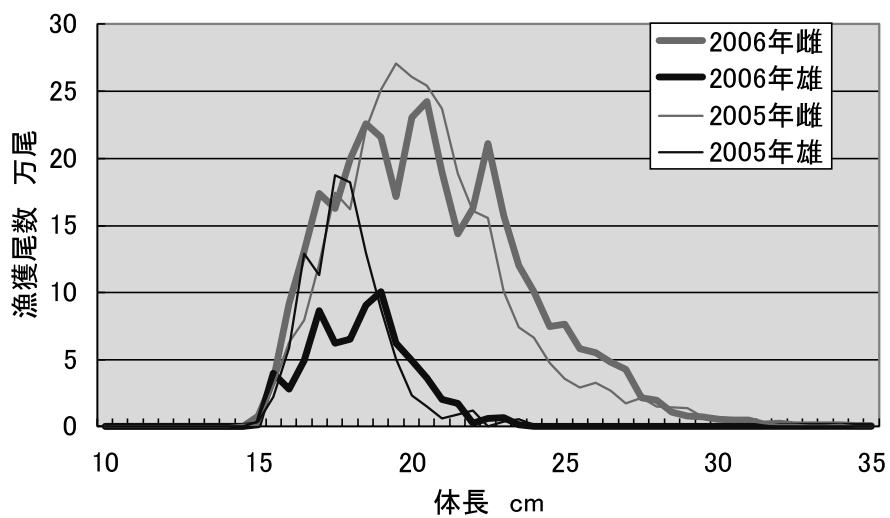


図4 ソウハチの体長組成の比較

